

生きることにした。



休暇



小林 薫 西島秀俊 大塚寧々 大杉 漣
柏原収史 菅田 俊 利重 剛 谷本 一 宇都秀星 今宿麻美 滝沢涼子 榊 英雄 りりィ

原作：吉村 昭「休暇」(中公文庫版『螢』所載より) 監督：門井 肇
製作：野口英一 小池和洋 / 製作顧問：足立喜之 / プロデューサー：赤間俊秀 / 脚本：佐向 大 / 撮影：沖村志宏
照明：鳥越正夫 / 美術：橋本千春 / 録音：沼田和夫 / 編集：金子尚樹 / 助監督：高橋雄弥 / 音楽：延近輝之 / 刑務関係アドバイザー：坂本敏夫
製作：「休暇」製作委員会(山梨日日新聞社・山梨放送・リトルバード) / 配給：リトルバード
支援 **文化庁** / 協賛 **明治安田生命** @2007「休暇」製作委員会



人の命とひきかえに。

「死刑執行の際、支え役を務めれば一週間の休暇を与える」 生と死の間でゆれ動くひとりの人間が、やがてたどり着く場所とは――



他人の命を奪うことで得られる幸せは、果たして本当の幸福と言えるのだろうか…？

死刑囚を収容する拘置所に勤務する刑務官たち。彼らは常に死と隣り合わせの生活を余儀なくされる。ベテラン刑務官、平井もそのひとり。心の平穏を乱すことには背を向け、決まりきった毎日を淡々とやり過ごす男。そんな平井がシングルマザーの美香と結婚することになった。なかなか打ち解けない連れ子との関係を築く間もないまま挙式を目前に控えたある日、死刑囚・金田の執行命令が下る。執行の際、支え役（死刑執行補佐）を務めれば1週間の休暇を与えられると知った平井は、新しい家族と共に生きるため、究極の決断をするのだった…。

原作は「戦艦武蔵」「魚影の群れ」「闇にひらめく」（『うなぎ』の原作）の文豪、吉村 昭の短編小説。今まで無為に過ごしてきた男が人生を見つめ直すために乗り越えなければならぬ大きな壁。希望を奪われた死刑囚の抱える闇と、彼の未来を奪う使命を託された刑務官たちの苦悩。さらには彼らと関わりを持つ者の深い哀しみと愛情。死刑に至る日々と親子3人のささやかな新婚旅行を通してそれぞれの幸福、家族の絆が浮き彫りとなり、生死と直面した人々の骨太で感動的なドラマが展開されていく。

豪華キャストによって描かれる、かぎりない優しさにあふれた人間ドラマ

主演の平井に『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』『歓喜の歌』の小林 薫。生きることの意義を見出していく不器用で寡黙な刑務官に扮し、代表作と呼ぶにふさわしい名演を見せる。死刑囚・金田に『Dolls』『大奥』の西島秀俊。あらかじめ未来を失った青年を圧倒的な存在感で見事に体現。また平井を本能的な優しさで受け入れる妻の美香には『HERO』の大塚寧々、平井の上司・三島に『Life on the Longboard』『花は散れども』の大杉 漣、部下の大塚に『カミュなんて知らない』の柏原収史といった多彩なキャストが顔を揃えた。監督は、モントリオール世界映画祭に出品された『柵の隅』の新鋭、門井 肇。非常に困難な題材を、繊細かつ温かい視点で大胆に描ききる。また脚本に『まだ楽園』の佐向 大、撮影に『サウスパウンド』の沖村志宏、編集に『パッシング』の金子尚樹といった有能なスタッフが結集した他、『刑務所の中』『13階段』にも参加した元刑務官・坂本敏夫がアドバイザーとして名を連ね、リアルな描写を追求している。



休暇

2008年/日本/35mm/カラー/ヴィスタサイズ/115分

eigakyuka.com

6月7日(土)全国ロードショー

全国共通特別鑑賞券 ¥1,300 (税込) 絶賛発売中! [当日一般 ¥1,800]

※上映時間等詳細は各劇場へお問い合わせ下さい。

JR有楽町駅日比谷口前・有楽町ビル内
有楽町スバル座
03-3212-2826

フジテレビ前・アクアシティお台場
お台場シネマシアターJ
03-5531-7878

コマ劇場前シネシティ
新宿オデオン座
03-3202-5657

アリオ西新井 4F
TOHOシネマズ西新井
03-5888-1041

JR中央線立川駅北口
立川シネマシティ
042-525-1251